

## 中野徹三教授略歴・主要業績目録

### 略 歴

- 1930年12月 北海道旭川市に生まれる。
- 1953年 3月 北海道大学文学部史学科卒業
- 1953年 4月 北海道大学大学院文学研究科修士課程入学
- 1956年 3月 北海道大学大学院文学研究科修士課程修了（文学修士）
- 1956年 4月 北海道大学大学院文学研究科博士課程入学
- 1962年 3月 北海道大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学
- 1963年 4月 札幌短期大学専任講師
- 1965年12月 札幌短期大学助教授
- 1968年 4月 札幌商科大学助教授
- 1972年 4月 札幌商科大学教授
- 1977年 4月 札幌商科大学人文学部教授
- 1984年 4月 札幌学院大学人文学部教授（校名変更）
- 1997年 4月 札幌学院大学人文学部長
- 1999年 3月 同大学定年退職
- 1999年 4月 札幌学院大学名誉教授
- 
- 1969年 6月～1987年 5月 学校法人明和学園札幌学院大学理事（うち79年 6月～81年 5月除く）
- 1969年 6月～1985年 9月 学校法人明和学園札幌学院大学常務理事  
（うち79年 6月～83年 5月除く）
- 1987年10月 学園創立40周年。大学開学20周年記念式典において学園功労者として表彰される
- 
- 1974年 5月～現在 北海道自然保護協会会員
- 1975年 5月～1994年 5月 北海道自然保護協会理事（うち80年 5月～84年 5月除く）
- 1978年 4月～現在 社会思想史学会会員（92年11月～94年11月幹事）
- 1978年 7月～現在 唯物論研究協会会員
- 1986年 3月～1988年 2月 北海道自然環境保全審議会委員
- 1988年11月～現在 社会主義理論学会会員・幹事
- 1990年 4月～1992年 3月 札幌市緑の審議会委員
- 1991年～現在 International Society for the Study of European Ideas (ISSEI) 会員
- 1996年12月～現在 Ernst-Bloch-Gesellschaft 会員

## 業 績

### 1. 著書

- 1966年 4月 『新西洋史通論』（共著）明玄書房  
 1970年 7月 『レーニン・人と思想』（共著）清水書院  
 1977年 3月 『マルクス主義と人間の自由』青木書店  
 1977年12月 『スターリン問題研究序説』（共著）大月書店  
 1979年10月 『マルクス主義の現代的探求』青木書店  
 1987年 9月 『トロツキーとゴルバチョフ』（共著）窓社  
 1988年 6月 『思想探検』（共著）窓社  
 1989年 4月 『生活過程論の射程』窓社  
 1995年 2月 『社会主義像の転回』三一書房  
 1995年 7月 『エンゲルスと現代』（共著）お茶の水書房  
 1998年 3月 『マルクス・カテゴリー事典』（共著）青木書店

### 2. 学術論文等

- 1959年12月 「マルクス主義美学の根本問題」『思想』1959年第12号，岩波書店  
 1961年 5月 「ソヴェト・マルクス主義における新動向の展開とその思想的意義」『スラブ研究』第5号，北大スラブ研究所  
 1961年12月 「疎外論とマルクス主義」『唯物論研究』第9号，青木書店  
 1962年12月 「マルクス主義美学の現代的課題（上）」『思想』1962年第12号，岩波書店  
 1963年 4月 「マルクス主義美学の現代的課題（下）」『思想』1963年第4号，岩波書店  
 1963年12月 「疎外論の理論的諸問題」『唯物論研究』第15号，青木書店  
 1964年 3月 「シュレジェン時代におけるヴィルヘルム・ヴォルフの思想と活動」『札幌短期大学論集』第11号  
 1967年 6月 「マルクス・エンゲルスの教育思想」『講座民主教育の理論（下巻）』明治図書  
 1969年 「教育の本質と人間観」『講座現代教育研究』第6巻，標準テスト社  
 1973年 6月 「哲学体系化のあたらしい試み」『科学と思想』第9号，新日本出版社  
 1975年 3月 「マルクス主義と人間の自由」『現代と思想』第19号，青木書店  
 1975年10月 「史的唯物論の再構成とその課題」『現代と思想』第21号，青木書店

- 店
- 1976年9月 「マルクス主義と人間の自由（続）」『現代と思想』第25号，青木書店
- 1976年12月 「マルクス・エンゲルスにおける《プロレタリアートのディクタトゥーラ》概念」『常盤敏太博士喜寿記念論集人間・空間・時間』，和広出版
- 1977年3月 「マルクス・エンゲルスにおける《教育と生産的労働との結合》の思想（1）」『海外教育研究』第3号，学事出版
- 1977年3月 「自由論の理論的諸問題」『科学と思想』第23号，新日本出版社
- 1977年5月 「上部構造論の再構成」講座『史的唯物論と現代』第2巻，青木書店
- 1977年8月 「永井 潔『美術論ノート』によせて（上）」『美術運動』第105号
- 1977年12月 「永井 潔『美術論ノート』によせて（下）」『美術運動』第108号
- 1977年12月～78年6月 「シンポジウム・スターリン主義の検討」（稲子恒夫・上島武・斉藤孝・藤井一行・藤田勇各氏との討論）『現代と思想』第30～32号
- 1981年5月 「マルクス・レーニン主義研究所（IML）の三ヵ月」『唯物論研究』第4号，唯物論研究協会，汐文社
- 1981年7月 「私たちのシュタインバッハシューレ——三人の子の西ドイツでの学校生活」『民教』62号，北海道民間教育研究団体連合協議会
- 1982年7月 「『経済学・哲学草稿』のフォトコピーと新解読原稿に接して—MEW版との比較—」『札幌唯物論』第27号，札幌唯物論研究会
- 1983年12月 「『物質の哲学的概念』の構造と論理（上）」『札幌商科大学論集』第34号
- 1983年12月 「Karl Löwith: Curriculum Vitae カール・レーヴィット『わが思想の履歴書』（翻訳）」『札幌商科大学論集』第34号
- 1984年7月 「意識の存在論と物質概念（上）」『季報唯物論研究』第13・14合併号，季報「唯物論研究」刊行会
- 1985年7月 「意識の存在論と物質概念（下）」『季報唯物論研究』第18号
- 1985年2月 La teoria marxiana del processo vitae e le sue potenzialità teoretiche. Marx cen-touno, Atti del Convegno Internazionale “Cento anni dopo Marx, potenzialità e sviluppi del pensiero marxiano”, Milano, 5 - 7. dic. 1983, conditor, Milano, 1985. 「マルクスの生活過程論とその理論的可能性」『マルクス101年，1983年12月5—日ミラノで開かれた国際会議《マルクス後100年，マルクス思想の可能性と展開》

- 報告集』コンディートル社, ミラノ, 1985年
- 1985年12月 „Lebensprozess als der Totalitäts-Begriff der marxistischen Sozialphilosophie und Anthropologie – zur Überwindung der stalinistischen Philosophie – die Resümee des Vortrags im internationalen Symposium „Die Gegenwärtige Bedeutung marxischen Denkens“ anlässlich des 100. Jubiläums des Todes von Marx, veranstaltet von 30. März bis 1. April im Jahre 1983 in Dubrovnik Jugoslawien.「マルクス主義社会哲学と人間学の総体性概念としての《生活過程》—スターリン主義哲学の克服のために—」(ユーゴスラビア・ドブロブニクで開かれたマルクス没後100周年記念国際シンポジウム『マルクス思想の現代的意義』1983年3月30日—4月1日での報告原稿)『札幌学院大学人文学部紀要』第38号
- 1986年6月 「スターリン主義の思想と哲学」『現代の理論』第226号, 現代の理論社(シンポジウム「スターリン批判30周年」での報告)
- 1988年3~4月 「日本共産党の現綱領とその諸論拠(上)(下)」『労働運動研究』第221~222号 労働運動研究所
- 1988年6月~9月 「生活過程と生活協同組合」『生活協同組合研究』第150~153号, 生活問題研究所
- 1988年9月 Bloch und die Ontologie des Bewusstseins – über Blochs Theorie, des Bewusstseins und ihre Stellung in der marxistischen Philosophie, die Resümee des Vortrags im internationalen Symposium anlässlich des 10. Jubiläums des Todes von Ernst Bloch „Die Philosophie des rechten Ganges“ veranstaltet von 28. bis 30. Mai, in Zagreb, Jugoslawien. 「ブロッホと意識の存在論—ブロッホの意識論とマルクス主義哲学におけるその位置」(ユーゴスラヴィア・ザグレブ大学で開かれたエルンスト・ブロッホ没後10周年記念国際シンポジウム「正しい道程の哲学」1987年5月28—30日での報告原稿)
- 1988年12月 「歴史と人間の生活過程・社会史の問題とも関連して」『新しい歴史学のために』(京都民科歴史部会)第193号
- 1989年6月~7月 「新しい思考と化石化した思考(上)(下)」『月刊社会党』第403~404号
- 1989年 「ロシア革命のインパクト」『朝日百科・世界の歴史 第24巻 20世紀の世界』第116号
- 1990年2月 「東ドイツ知識人からの手紙」『季刊窓』第3号, 窓社

- 1990年4月～1991年12月 「コミンテルン70周年と社会民主主義再評価のために」『労働運動研究』第246～266号
- 1990年6月～1991年3月 「日本共産党はどこへ行くのか」I～IV『季刊窓』第4～7号
- 1990年7月 「『哲学のレーニンの段階』の根底的止揚をめざして」『札幌唯物論』第35号
- 1990年9月 「東欧革命とマルクス主義哲学」『思想と現代』第23号，柏書房
- 1991年 「意識論の地平はどこから開かれるべきか」『札幌唯物論』第36号
- 1991年10月 「ペレストロイカの経済社会学」『経済評論』91年10月号，日本評論社
- 1991年10月 「ロシア『八月革命』とその意味するもの」『労働運動研究』第264号
- 1991年12月 「現代世界の基本動向と協同組合の基本的価値」『協同組合の基本的価値—札幌国際シンポジウム報告』，「コープさっぽろ」刊行
- 1991年12月 「『八月革命』はマルクス主義者に何を問うているのか」『季刊窓』第10号
- 1991年12月 Zionism and Socialism in the Thought of Moses Hess. The Report made at the workshop “Nationalism and Socialism” of the Second Conference of the International Society for the Study of European Ideas (ISSEI), Leuvan, Belgium, on 4. Sep, 1990. 「モーゼス・ヘスの思想におけるシオニズムと社会主義」（ベルギーのルーヴァンで開かれた「ヨーロッパ思想研究国際協会」第2回会議のワークショップ「ナショナリズムと社会主義」での報告，1999年9月4日）『札幌学院大学人文学会紀要』第50号
- 1992年2月～5月 「ソ連邦解体が提起するもの（上）（中）（下）」『労働運動研究』第268号～271号
- 1992年12月 「民族再生の苦難を現地に見る—デンマークからバルト三国への旅—」『労働運動研究』第278号
- 1993年3月，8月 「トロツキーの哲学（上）（下）」『トロツキー研究』第6～8号トロツキー研究所
- 1993年7月 Marx, Communism and Social Democracy. Report made at the workshop 'Marxist Political Thought' of the Third Conference of ISSEI, Aalborg, Denmark, on 25. August 1992. 「マルクス，コミュニズム，社会民主主義」，（デンマークのオールボーで開かれた「ヨーロッパ思想研究国際協会」第3回会議のワークショップ「マルクス主

- 義政治思想」での報告, 1992年8月25日)『札幌学院大学人文学会紀要』第50号
- 1994年12月 「誰が誰であるか?—旧東独国家保安省文書はどこまで解読されたか」『季刊窓』第22号
- 1994年9月 「マルクスの社会・歴史理論におけるユートピアと科学」『社会思想史研究』第18号, 社会思想史学会1994年度年報, 北樹書店 (社会思想史学会第18回大会シンポジウム「マルクスにおける生けるものと死せるもの」での報告要旨)
- 1995年6月 「新しい社会主義像の原理的探究をめざして」『労働運動研究』第308号
- 1995年9月 「唯物論の現代的再生のために」『思想と現代』第40号
- 1995年9月 「『戦後50年』と社会主義論の現時点をめぐって」『月刊フォーラム』95年9月号, 社会評論社
- 1996年5月 「いま, 20世紀の社会主義を検証する」(一橋大学教授・政治学者・加藤哲郎氏との対談)『月刊フォーラム』96年5月号
- 1996年7月～8月 「『シュタージ』とは何であったか(上)(下)」『労働運動研究』第321号～322号
- 1997年3月 「心脳論序説(上)——脳科学と人間諸科学との対話のために」『札幌学院大学人文学会紀要』第60号(未完)
- 1997年8月 「本学の『一般教育』をめぐる諸問題についての見解と提案」『札幌学院大学人文学会紀要』第61号
- 1998年5月～8月 「グラムシの哲学とマルクスの哲学(上)(中)」『ネアンデルタール21』第4号～5号(未完), ネアンデルタール21社
- 1998年6月 「いわゆる『自由主義史観』が提起するもの」『労働運動研究』第344号
- 1999年6月～7月 「現代への証言——川口孝夫『流されて夢の国へ』を紹介する(上)(下)」『労働運動研究』第356号～357号
- 1999年9月 「画期的な実態調査『北海道と朝鮮人労働者』, 『労働運動研究』第359号
- 1999年11月 「『20世紀社会主義』の総括のために」『労働運動研究』第361号(労働運動研究所創立30周年記念シンポジウムでの報告要旨)
- 2000年2月 「『共産主義黒書』を読む(上)」『労働運動研究』第364号

(自然保護運動関係)

- 1986年 「森と『森の死』と」『北海道の自然』第26号, 北海道自然保護協会
- 1987年 「知床の森を守る」及び「エピローグ・北海道の自然保護運動——北海道自然保護協会22年の歩み」『神々の遊ぶ庭』北海道自然保護協会編, 築地書館
- 1989年 「国民との協同こそ問題解決の道——林野庁検討委員会答申を読んで」『北海道の自然』第28号
- 1990年 「北海道の自然保護について——各政党はこう考える」『北海道の自然』第29号
- 1992年 「阿寒国立公園屈斜路湖畔ゴルフ場計画に反対しよう」『北海道の自然』第30号
- 1995年 「法人化の前後——その経験から」『北海道の自然』第33号

(学園誌関係)

- 1984年4月 「学園38年の歩みと明日にかけるもの」『札幌学院評論』創刊号
- 1985年10月 「ハイデルベルクからドブロブニクへの旅」同上第4号
- 1987年 『学園創立40周年・大学開学20周年記念誌』沿革Ⅲ～Ⅷ各章 学校法人明和学園・札幌学院大学
- 1998年3月 「札幌学院大学とは何か」蔵田親義, 鈴木敬夫, 是永純弘, 狩野陽各学部長との座談会『札幌学院評論』第21号

3. その他 (学会発表等)

- 1965年11月 「ヘスとマルクス」経済学史学会第28回大会
- 1967年11月 「マルクス・エンゲルスの教育思想と児童労働論との関連」経済学史学会第30回大会
- 1973年10月 「上部構造論の再構成」第46回日本社会学会大会客員報告
- 1974年8月 「義人同盟ロンドン派とマルクス・エンゲルス」北海道大学史学会大会
- 1983年3月～4月 „Lebensprozess“ als der Totalitätsbegriff der marxistischen Sozialphilosophie und Anthropologie. Internationals Symposion „Die gegenwärtige Bedeutung des Marxschen Denkens“ Dubrovnik, Jugoslawien
- 1983年10月 「物質の哲学的概念をめぐって」唯物論研究協会第6回研究大会

- 1983年12月 Marx's Theory of Lifeprocess and its theoretical potentialities. Convegno internazionale "Cento anni dopo Marx, potenzialità sviluppi del pensiero marxiano." Milano, Italy.
- 1984年8月 「チュチェ思想とマルクス主義」主体科学院（朝鮮民主主義人民共和国・平壤）
- 1985年4月 Lukács und Stalinismus.eine Analyse der Widersprüche seinerästhetischen Widerspiegelungstheorie. „Marxismus und Philosophie, Symposium über Ernst Bloch und Georg Lukács“ Dubrovnik, Jugoslawien
- 1986年3月 「スターリン主義の思想と哲学」スターリン批判30周年記念シンポジウム, 社会主義歴史研究会
- 1986年10月 「意識の存在論について」唯物論研究協会第9回研究大会
- 1987年5月 Bloch und die Ontologie des Bewusstseins.über Blochs Theorie des Bewusstseins und ihre Stellung in der marxistischen Philosophie. Symposion: Die Philosophie des aufrechten Ganges. Zagreb, Jugoslawien
- 1988年10月 「人間に関する『一般理論』と『人間科学』はいかにして成立可能か」札幌学院大学人文学部10周年記念人間科学に関するシンポジウム『人間科学に関するシンポジウムと経験交流会』人文学会編所収
- 1989年8月 「国民との協同こそ問題解決の道」『日本の森と生活を考える知床シンポジウム』基調報告, 斜里町, 同報告集所収
- 1989年11月 「コミンテルン70周年と社会民主主義の再評価」労働運動研究所創立20周年記念シンポジウム報告
- 1990年4月 「現代マルクス主義と東欧変革」90年度社会主義理論学会研究集会
- 1990年5月 「社会主義の再生は可能か—コミュニズムの過去・現在・未来—」社会主義懇談会主催5月フォーラム
- 1990年9月 Zionism and Socialism in the Thought of Moses Hess. International Symposium "Nationalism in Europe - towards 1992" The Second Conference of the International Society for the Study of European Ideas (ISSEI), Leuvan, Belgium
- 1990年11月 「トロツキーの哲学思想」トロツキー没後50周年記念国際シンポジウム, 東京大学
- 1992年8月 Marx, Communism and Social Democracy. The Third Conference of ISSEI, Aalborg, Denmark



- 1993年10月 「マルクスの社会・歴史理論におけるユートピアと科学」, 社会思想史学会第18回大会シンポジウム『マルクスにおける生けるものと死せるもの』, 札幌学院大学
- 1993年10月 札幌学院大学講演会における論者の紹介, 講演の通訳 Prof Dr.Hermann Weber:Warum der DDR-Sozialismus gescheitert war-vom Gesichtspunkt der Widersprüche zwischen den Bürgern und dem System —「東ドイツ社会主義はなぜ挫折したか—市民と体制の間の矛盾の視点から」
- 1994年 8月 The Concept and Theory of “Lift-process” as a New Paradigm of Social Philosophy. The Fourth Conference of ISSEI, Graz, Austria.
- 1995年 4月 「『エンゲルス主義』とは何か——その哲学と社会主義論」社会主義理論学会第6回研究集会
- 1997年 9月 「人間学概論Aの講義の経験から」第3回フォーラム人間科学を考える, 札幌学院大学『札幌学院大学人文学会紀要』第63号, 所収
- 1998年11月 「グラムシとトロツキー——両者の哲学思想を中心に」シンポジウム, 『トロツキーとグラムシ』トロツキー研究所, 東京グラムシ研究会
- 1998年12月 「人間科学の教育を考える」『第4回フォーラム人間科学を考える』, 文教大学
- 1999年11月 「『20世紀社会主義』の総括のために」労働運動研究所創立30周年記念シンポジウム